

福島敏夫随筆集

「乙戸南雑話「花鳥風月及び星・虹を愛でながら」から

主宰論説40

2023年を振り返って（その2）

（2023年を振り返って）（その2）

激動の2023年も、まもなく、終わろうとしています。

私自身は、懲りず諦めず、リハビリテーションに励みました。相変わらず繰り返す腰痛や、なかなか回復しない左手の握力低下に悩まされましたが、他の不具合は、かなり改善しました。まず、血行不良による歩行困難は、ほぼ改善され、二足歩行は、可能になりました。腰痛でしゃがみ込むこともあり、長距離遠出は、まだまだ難しいながらも、短距離だと、杖無しでも大丈夫なようです。また、加齢による業病とされる緑内障も、今のところ、眼圧は、10から11で安定しているので、回復しないまでも、進行は沈静化しており、失明の恐れはなく、まだまだ好きな可視化の研究は、続けられそうです。幸運に感謝したい。生命力や寿命もあり、あと何年続けられるか分かりませんが、知力・体力・学力の回復を図り、2～3やり残した話の実現を図りたいと思います。可視化の話など、じぶんの好きなことをやり続けると、結果的には、世のため、人のためにも連なると思っています。数独パズル、クロスワード・パズル、偏微分方程式等の応用数学、劣化過程の可視化・映像化などを楽しんでいるので、頭の働きは、まだまだ残っているらしいです。ですが、随分長らくやっているのですが、インターネットを利用した囲碁、麻雀は、相変わらず、まるでダメなようです。よほど才能がないようです。しかし、最近、少しだけ、実力アップ模様ですので、懲りずに続ける積りです。また、また、新聞・雑誌だけでなく、新たに、WEBB上で、数独パズル、クロスワード・パズルなどを楽しんでいます。

今年は、例年になく、多方面の活動を続けることができたように思われます。花鳥風月及び星・虹を愛でながら、言論の自由と情報発信と啓蒙による世界貢献に努めるかわら、**“多頭流方式”**での研究活動を続けることができました。

年の初めに、久しぶりに参加した建築研究コンソーシアムのアイデアコンペで、提案した研究課題に対して、佳作の表彰を受け、6月後半の総会・懇親会で、その内容の展示を行い、皆様に公開する機会を頂きました。そのアイデアで示した事項については、共同でやれる機会を期待しながらも、当分、単独で予備的研究を行うことを目指しました。

4月後半には、つくば国際会議場で行われた、材料学会主催の研究発表の年次大会での建築・土木のセッションで、これまで温めていた混合セメントコンクリートの持続可能性の観点から再考察した環境調和型設計について、無事発表を終えることができました。パソコンの会場持参でのハイブリッド方式でしたが、他の若い研究者の興味深い研究発表にも触れ、いささかのトラブルに関わらず、無事に済んだのは、幸いだったと思います。

7月のマテリアルライフ学会は、大阪大学理学部南部陽一郎記念ホールでの対面方式の開催でした。当初、現地まで出向いて、対面方式の発表を行う予定でしたが、スケジュール的なものと、今ひとつ単身で赴く際の不都合を考慮し、Movieによる遠方からの発表になりました。それでも、ポリビニル系高分子材料の光劣化の解析の研究の熱意は、十分に伝えられたものと考えられました。

9月に京都大学で行われた日本建築学会2023年年次大会では、懲りないようですが、「コンクリートの二酸化炭素による炭酸化の多方面からの進行予測と可視化の一環として、「二酸化炭素の多方向拡散過程によるコンクリートの中性化進行過程の可視化（その11）—逆ステップ応答解析—」のタイトルで、無事対面方式での研究発表を終えることができました。また、若い研究者の、新しい息吹を感じる、興味深い研究発表にも触れることができました。

10月後半の日本建築仕上学会では、先のアイデアコンペで提案した曲面型建造物での適用を考え、水蒸気の非定常移動過程のシミュレーションと可視化の予備的検討の一環として、「外

断熱材料システムにおける水蒸気移動過程の可視化（その6）－半球多層曲面屋根への適用」というタイトルで、対面方式での研究発表を無事終えることができました。若い研究者の、新しい息吹を感じる、興味深い研究発表にも触れることができました。

また、5月後半、日本学術会議土木・建築部会主催の環境工学連合講演会「グリーンリカバリー環境工学」にオンラインで参加し、諸分野における環境配慮および環境調和型の研究および技術開発に関する最新動向にも触れることができました。

12月初旬、セメント協会研究所講演会に、オンライン方式で参加しました。高炉スラグおよび火山岩ガラスの持続可能性からの有効利用法等とその耐久性面からの評価法についての、情報と知見の一端に触れることができました。

また、12月初旬、マテリアルライフ学会の第6回マイクロプラスチック・シンポジウムに、オンライン方式で参加しました。海洋・陸地・大気中で観測され、生態系に深刻な影響を与えるとされるマイクロプラスチックの動向とその有効な対応策の模索について知ることができました。

また、研究発表会の合間に、いろいろ名庭園を訪れ、半自然の花々の趣を楽しむことができました。

また、振り返りますと、昔国際会議等を通じて訪れた、世界各国（フィンランド、スウェーデン、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、アメリカ、シンガポール、中国、インドなど）の素晴らしい風景や美しい街並みや庭園の映像が、Facebook を通じて提供され、楽しむこともできました。また、Youtubeを通じて、いろいろな音楽を楽しみました。フランスおよび日本のシャンソン（パリの空の下で、夜明けの歌、愛の讃歌など）、日本の懐かしの歌謡曲（青山脈、時計台の鐘、ニコライの鐘、長崎の鐘、希望、ジュピター、北ウイング、北空港、北の旅人、熱い心に、二人の銀座、喝采、乾杯、いい日旅立ち、川は呼んでいる、川の流れるように、異邦人、銀色の道、サライなど）や日本の唱歌・童謡（からたちの花、冬の星座、富士山、アルプス一万尺など）、旧制高等学校寮歌（ああ玉杯に花受けて、散りにし花は幻か、紅もゆる丘の花、北の都に秋たけて、椿花咲く、都ぞ弥生の黒紫に、伊吹おろしなど）、東日本地震等からの復興支援ソング（スタンド・アロン、花は咲くなど）や、クラシック音楽（アランフェス協奏曲、G線上のアリア、美しき青きドナウ、ドナウ河の漣、乙女の祈り、トルコ行進曲、田園、新世界「家路」など）、世界のヒットメロディー（真珠とり、夜空のトランペット、コーヒールンバ、南国の夜、虹のかなたに、コンドルは飛んでいく、など）、同様に、楽しむことができました。ピアノ、ギター、バイオリン、エレクトーン、ウクレレ、オカリナ、ハープ、ハーモニカ、アコーディオン、二胡、ケーナ、マンドリン、トランペット、フルートなど、多様な楽器による音楽も楽しめました。Facebook のソーシャル・ネットワーク（SNS）で、いろいろな人、サークル、同好会、企画と繋がり、いろいろな情報発信および情報交換等を持つこともできました。有り難うございました。

暖冬気味だった12月上旬とは打って変わり、またまた訪れた年末の大寒波と雪害がまだまだ収まりきらない中で、今年も、終わりになろうとしています。世界各地の戦乱・内乱は、まだまだ収まっていません。未解決なことが、あまりにも多いのが、気になるころですが、花鳥風月及び星・虹を愛でることでも、いろいろな意味で、癒やしになり、ほのぼのとした気持ちにもなるようです。改めて、静かな良い年末と夢と希望と光の見える来年を迎えられることを期待したいものです。今年の皆様のご厚情に感謝したいと思います。良いお年をお迎えください。

令和5年12月29日 乙戸南にて 福島敏夫

